

芳賀中学校：夢や希望をはぐくむ学校文化の創造

目指す学校像（どんな学校にしていきたいか）

「心身ともに健康で、高い知性と特性を持ち、よいことを進んでする生徒を育成する。」
学校スローガン「学べ 鍛えろ 夢を持って」

目指す児童生徒の具体的な姿

生徒一人一人が社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身につけていく姿

- ◇自分を知り、夢が語れる生徒
- ◇自分の夢を広げられる生徒
- ◇夢に向かって挑戦する生徒

「夢」を持つことでその実現のために、日々の活動に我慢をしたり、努力をしたりすることにつながる

子どもを元気にするために、
学校全体で取り組むこと

- 目的目標意識を持って学習に取り組める生徒を育成するために「めあて」や「振り返り」活動の工夫を行う
- Q-U等を活用し、積極的な生徒指導と教育相談の推進による心の教育の充実を図る
- 芳賀中奉仕団による有価物回収やボランティア活動を通して、思いやりと奉仕の心を育む

子どもの意欲を高め、主体的な学びを進めるために、
先生一人一人が取り組むこと

- 「めあて」と「振り返り」を工夫し「確かな学力」の定着・向上を図る
- ・タブレットの活用研修を行い、指導力の向上に資する
- ・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実践を行う
- Q-Uの結果を共通の指標として、心の教育のための積極的な生徒指導と教育相談の推進する
- 日常の保健体育や部活動を通して基礎体力の向上を図る時間の確保
- 危機管理体制の確立
- 家庭や地域との連携

<学校課題の明確化（重点とした理由）>

夢や希望を実現するためには、基礎学力の充実が必要であるとともに、学校評価の結果から以下の重点課題を設定した。①は「夢」を持たせるための課題である。②③は本校の実態であり現代教育の喫緊な課題なので継続重点とした。

<重点>

- ①柱2 重点-8(27)発達段階に位置づけられた教育課程において、自己の生き方を考える時間を確保する
- ②柱2 重点-5(12)授業で「めあて」と「振り返り」を明確し学習意欲を高めさせる
 - 柱1 重点-2(4)日常の観察、いじめアンケート等から情報を収集し、報連相体制で対応する支援を必要とする保護者・生徒に対し、関係機関と連携し、指導に当たる
- ③柱3 重点-10(33)生徒が奉仕団の活動で培ったボランティア精神を委員会や学級での活動に進んで生かせるようにする

指針で目指すものの共通理解：「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に活動する子ども」

児童生徒・学校の実態

- ◇授業に真面目に取り組むが、家庭学習の時間が極めて少なく、まったくしない生徒もいる。
- ◇全体的には落ち着きがあるが、人間関係がうまく築けない生徒が孤立してしまうことがある。
- ◇本校独自の奉仕団活動から、生徒のボランティアに対する意識は高い